

第7回高知県立学校の校名に関する検討委員会 概要

【日時等】平成28年10月26日（水）18：30～20：30 高知共済会館3階「桜」

【出席者】検討委員会委員：西郷会長、時久副会長、池委員、池田委員、稲田委員
川北委員、西尾委員

教育委員会（教育長）

教育委員会事務局（9名）

【傍聴者】44名

会議の概要

○学校代表からの意見（全員が冒頭に発言の機会への感謝の意を述べて始まる）

【須崎高校】

保護者代表（鳩友会代表欠席）

- ・両校で話し合いを行い「須崎総合高校」にまとまった。
- ・普通科、工業科、定時制と総合的な学校ということで考えた。
- ・もし、別の案を検討するなら、①「須崎」を入れてほしい、②「須崎」の次に地名は避けてほしい。③「黒潮」「山の手」など地域を限定する校名は避けてほしい。

【須崎工業高校】

保護者代表

- ・同じく両校で話し合いを行い、「須崎総合高校」にまとまった。
- ① 新しい学校なので、新しい校名がふさわしい。
- ② 両校の校名に共通する「須崎」は残してほしい。
- ③ 須崎の次に地域を限定する地名は避けてほしい。
- ・以上を併せて工業科6専攻を持ち、普通科、定時制のある総合的な学校であり、「須崎総合」が適当でないかとなった。

同窓会代表

- ・同窓会としては、元々要望書も提出したように須崎工業を単独で残してほしい思いはあったが、今はない。
- ・新しい学校なので、「須崎」の地名を入れて、総合的な学校なので「須崎総合」がよい。

【高知西高校】

保護者代表

- ・9千名近くのたくさんの人々が高知西の存続を望んでいることを全員に確認してほしい。
- ・応募した人の理由を読むと、決して卒業生の思いだけでなく西高校の伝統、現在のSGHの取組を生かせる高知西の校名存続を望む人が多い。
- ・新しい中高一貫教育校が成功するためには、今までの高知西高校の実績が重要。もし、統合により校名が変われば、この先、県立高校は一握りの伝統校とその他の新設校ばかりになる。
- ・高知西高校の歴史が残れば、今までの実績を上回ることができる。

校友会代表

- ・応募数8,559件のうち90%以上が高知西を望んでおり、圧倒的に多かった。
- ・背景は卒業生の愛着や誇り、将来高知西で学びたい子ども達の期待である。
- ・校友会だけではなく、鴨部地域の住民からも疑問や存続を望む声が多かった。これは、高知西高校の学生たちの暮らしぶりが評価されていると考える。
- ・8千人近い支持を集めた機動力と組織力は、今後の学校運営に非常に大きな力になる。

- ・応募に際し、校名、理由、住所等煩雑さのある用紙にあえて書いてもらえたのは、高知西を応援する意思の表れと考える。
- ・校名への思いが強い。個人の名前と同じであり、変わるのはいやなのが多い人の思い。これから高知西を選ぶ子どもたちへの責任であり、期待する校名である。高知西の校名は、高知県民の財産である。
- ・再編振興計画の中にある、「グローバル人材の育成を目指し、本県のグローバル教育のトップ校かつ進学拠点校」としての役割を担っていくには、学校と校友会が力を併せていくことが必要である。
- ・これまで県教委と学校とでは、SGH、国際バカロレアへの取組がバラバラになっている。これまでの取組を一つ一つ総合して実践し、県民にもオープンに進めていく時期になっている。校友会の取組としても一緒になってやっていく必要がある。

[高知南中高校]

校友会代表

- ・検討委員会の進行において、こちらが感じる疑問点を取り入れていただけてありがたい。
- ・絞り込みについては、これはというものに理由を付して、一人1案でお願いしたい。失礼な言い方になるが、複数を選ぶとなると、いい校名を選ぼうという発想からずれる。これがいいといえるものを3つとなると、一つはこれというものを選び、次は支持を得ているものを選ぶとなるなど、他の要因が入ってくると考える。
- ・今後は決定する場も公開し、どういう話し合いで何を選んだかをオープンにして欲しい。
- ・申し上げにくいですが、高知南にとってはどうしようもない理由、「歴史、伝統」は、できた時期が違い何も言えなくなる。どの学校もそれぞれりっぱな伝統があり、変わらないので、その観点は避けてほしい。
- ・統合がこの2つで終わるのならいいが、今回、数で決めたとなると、今後の統合校についても、結局、数なのかと数集めに走ることになる。選ぶ際には理由を汲んでもらえればと思う。
- ・数というのなら高知県民は72万なので、今回の応募数はその割合からすると県民の支持といえるのか。海外からの応募もしたので、世界には73億人以上いることも汲んでもらいたい。

保護者代表

- ・応募のあった校名候補をみると、現状の校名に関連する候補を除いた候補数は、約58%が全く新しい名前である。
- ・新しい学校には新たな名前をつけるのが当たり前。高知西高の思いもあるが、高知南中高としても思いの中では残してほしいが、高知西高の良いところをとって、新たな学校をスタートさせてはと考える。
- ・新しい学校は高知県を担う学校となる。第1に現役の生徒、第2にこれからの生徒、第3にこれから生まれてくる子供たちのためを考える必要がある。
- ・高校の名称を考えるのは、一生に一度あるかないか。一握りの伝統もあるが、新たなものを取り入れ融合するのも伝統ではないか。国際的な表記も考えて絞り込みをしてほしい。
- ・選んだ校名候補の理由は何だったのかをオープンにしてほしい。

○高吾地域拠点校の校名候補の絞り込み方法について

- ・両校が話し合ったうえでの結論を優先することで、全委員一致。
- ・次回に正式決定するので、本日の会議では「須崎総合高校」で仮決定とする。

○新中高一貫教育校の校名候補の絞り込み方法について

[候補同士の組み合わせ]

- ・校名候補の組み合わせはせずに、公募の候補から選ぶことで、全委員一致。

[最初の絞り込みは何案提出か]

- ・ 3案でよいのではという意見が多く、1案に絞りたい気持ちもあるが難しい。また、学校代表の意見にあった一人1案は責任が重いといった理由から、一人3案以内提出で決定。

[絞り込みの際の順位づけ]

- ・ 一人3案以内を提出することとしたため、1案しか出さないこともできるので、点数化する意味がないことから、第1段階での順位づけは行わない。

[提出及び集計の方法]

- ・ 事務局に委員から基本はメールで3案以内の校名候補を11月1日（火）までに委員の記名入りで提出し、事務局が集計したもの（校名候補ごとの数は表記し、委員名は出さず）を会長が確認のうえ、11月2日（水）に各委員に集計結果をメールで送る。
- ・ 次の会議（11月8日（火））までに最終の絞り込みに向けて、選定する校名候補と理由をあらかじめ委員に考えてもらう。
- ・ 個人メールで対応できない委員には別途、対応（事務局が持参、回収）する。

[集計結果の公表]

- ・ 無記名の集計結果（数、校名候補、理由は公表）を次の会議で公表する。
- ・ それまでの間、集計結果の情報は、委員止まりとする。

[最終的な絞り込み方法、報告数]

- ・ 次回、3案以内の集計結果を確認し、話し合いで絞り込みを行うが、話し合いで決まらなければ、投票も検討する。
- ・ 報告書の校名候補数は、3から5を想定しながら、絞り込みの作業を行う中で判断する。